

# 明日 への 話題

## サステナビリティが新たな価値になる



岡三証券グループ  
取締役社長

しんしば ひろゆき  
**新芝 宏之**

そもそも「証券会社、資産運用会社の役割ってなんですか」。「その仕事を続けていく上で貴方の生きがいてなんですか」。どう答えるだろうか。

「目の前のお客さまを儲けさせたい」というだけでなく、「世の中を良くしたい」「社会的な様々な課題を解決したい」。こんな思いを持つ人達が増えているように感じている。飢餓、貧困等を無くそうというゴールを持つ「SDGs」には当初、我が事としては捉えられない向きが多かったかもしれない。しかし、SDGsの認知度が高まり「サステナビリティ」というキーワードの浸透によって、環境、社会、経済、そして企業等の様々な領域についての持続可能性が、より身近なテーマになったと感じている。

サステナビリティには、かつてのSRI（社会的責任投資）やCSR（企業の社会的責任）のように単なるコストとしてではなく「損して得（徳）取れ」という商売の言葉の通り、目先は損に見えても長い目で見れば得になるという視点がある。ここに持続性を感じられる。逆に、利益至上主義が行き過ぎた企業経営においては「ステークホルダー資本主義」が唱えられ、過度のショートターミズムへの反省から、より長期的な視点が重視されつつある。

翻って、長期的な時間軸での企業価値には、短期的な経営成績である売上高や利益よりも「非財務情報」の重要性が高まる。但し、企業価値の評価には信頼性の高い比較可能な基準が不可欠であり、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）等のように開示基準の規格化に向けて努力がされている。漠然とした非財務情報が規格化されることによって、グローバルに比較し、評価、投資判断ができる時代が到来する。現行のリターン、リスクに加えて、社会的な課題解決への貢献を示す「インパクト」や「サステナビリティ」が第3軸の新たな物差し（価値基準）として定着するのが未来ではないか。

金融、資本市場に携わる者の使命として、サステナビリティを実現するための社会構造の変革にファイナンスをし、高い価値評価を与えること（プライシング）に貢献していきたいと思う。ゴールに向けてマネーの流れを創っていく手段の一つが広義の「ESG投資」だ。サステナビリティとESG投資はいわばゴールと手段の関係にある。素地が整いつつある今、サステナビリティはもはや、経営の一部ではなく経営そのものであり、我々の新たなパーパス（社会的存在意義）になると考えている。